



ヤナ状遺構

弥生時代後期～終末期

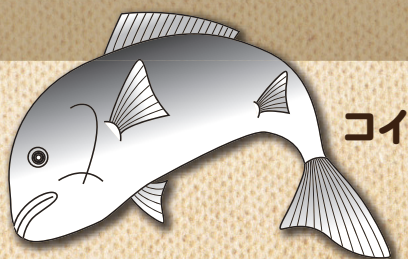
弥生時代後期には、中期まで環濠として使われていた溝のなかに、魚を捕獲するヤナとみられる施設が設けられていた。上流に作られた木組みで水流を調節し、下流に作られた簀との間に追い込んだ魚を捕獲する仕組みになっていたようだ。

朝日遺跡で最も多く出土している魚類はコイ、フナなどの淡水魚である。自然の河川だけでなく、集落に近い人工的な水路においても漁労活動が行われていたことがうかがえる貴重な発見である。

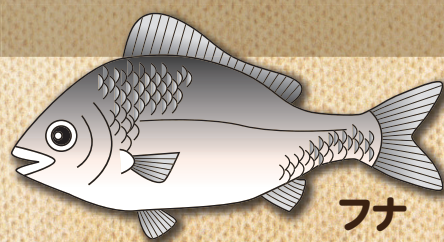
ヤナ漁の復元画・ジオラマ



コイ・フナなどの淡水魚



コイ



フナ